

- 問1 日本の歴史において、守護・地頭の設置や御成敗式目の制定が行われた時代（鎌倉時代）の様子を説明した記述として、ふさわしくないものはどれですか。（2018年 熊本県公立入試 類似）
1. 将軍と御家人が、土地を媒介として御恩と奉公の主従関係を結んだ。
 2. 北条氏が執権の職に就き、幕府の政治を動かした。
 3. 元軍の侵攻に対し、九州の御家人たちが防戦にあたった。
 4. 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。
- 問2 戦国時代、鉄砲の伝来などにより戦術が変化し、大規模な軍勢力とそれを支える安定した領地経営が不可欠となりました。こうした中、戦国大名が領国内の紛争を禁じたり、年貢の徴収を確実にしたりする目的で定めた「分国法」の性質として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）
1. 戦国大名が、室町幕府の法によらずに自らの領土を統治するために独自に定めた法律である。
 2. 鎌倉時代の慣習法を整理し、武士の裁判を公平に行うために幕府が定めた法律である。
 3. 幕府の許可を得た大名だけが、他国との貿易を制限するために定めた規則である。
 4. 朝廷が全国の公家や武士に対して一律に適用した法律である。
- 問3 戦国大名が定めた「分国法」に見られる特徴や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 岡山県公立入試 類似）
1. 鎌倉幕府が御家人たちの土地争いを公平に解決するために制定した
 2. 天皇や公家の行動を厳しく制限し、政治に関与させないようにした
 3. 江戸幕府が諸大名を統制し、勝手に城を修理することを禁じようとした
 4. 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした
- 問4 1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。（2016年 長野県公立入試 類似）
1. イギリス
 2. ポルトガル
 3. スペイン
 4. オランダ
- 問5 室町時代後半から戦国時代にかけて見られた、身分や立場が下の者が、実力によって上の者に打ち勝ち、その地位を奪う社会的な風潮を何といいますか。（2016年 静岡県公立入試 類似）
1. 一向一揆
 2. 尊王攘夷
 3. 御成敗式目
 4. 下剋上
- 問6 戦国大名が、室町幕府の法律があるにもかかわらず、独自に分国法を制定する必要があった背景として最も適切な理由はどれか。（2021年 京都府公立入試 類似）
1. 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。
 2. キリスト教の布教を制限し、仏教を基盤とした道徳的な領国経営を行う必要があったため。
 3. 元寇による社会の混乱を鎮め、分割相続によって困窮した御家人の生活を救済する必要があったため。
 4. 貨幣経済が浸透し、外国との貿易による利益を独占するために全国共通の商業ルールが必要になったため。
- 問7 16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。（2021年 愛知県公立入試 類似）
1. プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。
 2. プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。
 3. カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。
 4. 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。
- 問8 戦国大名の朝倉氏が定めた分国法（領国内の法律）の中には、家臣は自分の領地に城を構えることを禁止し、大名の本拠地である一乗谷に集まって住むべきことや、各地の統治には代わりの役人を配置することなどが記されています。このように、戦国大名が家臣を強制的に呼び寄せ、あわせて商工業者を集めることで経済の活性化を図った、領国の政治・経済・文化の中心地を何と呼びますか。（2023年 広島県公立入試 類似）
1. 門前町
 2. 港町
 3. 宿場町
 4. 城下町
- 問9 会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）
1. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した
 2. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した
 3. アメリカで奴隷制をめぐる南北戦争が勃発した
 4. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした
- 問10 戦国時代の堺において、自治的な運営を支えた商人の経済力や、当時の文化的な背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）
1. 勘合貿易の独占によって得た利益を背景に、幕府の役人が直接町を支配した。
 2. 会合衆と呼ばれる商人たちが町を治め、鉄砲の製造技術を取り入れることで軍事的・経済的地位を高めた。
 3. 朝廷からの特権を得た公家たちが、伝統的な和歌や蹴鞠の文化を町衆に広めた。
 4. キリスト教の布教を認める代わりに、南蛮貿易を独占してヨーロッパの文化のみを追求した。
- 問11 日本に鉄砲が伝来した16世紀半ばの世界情勢について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2019年 大分県公立入試 類似）
1. ムハンマドがイスラム教を創始し、アラビア半島の統一を進めていた。
 2. アメリカでリンカーンが大統領に就任し、南北戦争が勃発していた。
 3. チンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、ユーラシア大陸の広範囲を支配していた。
 4. ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。
- 問12 15世紀末、ポルトガルの航海者がアフリカ大陸南端の喜望峰を回ってインドに到達したことで、ヨーロッパからアジアへの直接的な海上ルートが確立されました。この人物が切り開いた「インド航路」について述べたものとして、最も適切なものを答えなさい。（2017年 高知県公立入試 類似）
1. マルコ・ポーロが、陸路でアジアを訪れた帰路に発見した。
 2. フェルディナンド・マゼランが、世界一周航海の一環として立ち寄った。
 3. クリストファー・コロンブスが、西回りでアジアを目指す途中に到達した。
 4. バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。	鎌倉時代は将軍と御家人の主従関係や、御成敗式目による武士社会の秩序が重んじられた時代です。設問にある「下剋上」は、室町時代末期から戦国時代にかけて顕著になった社会風潮であり、鎌倉時代の特徴ではありません。この時期には応仁の乱などをきっかけに幕府の権威が衰え、実力主義の時代へと移行していきました。
問2	答え 1 戦国大名が、室町幕府の法によらずに自らの領土を統治するために独自に定めた法律である。	戦国時代には戦術が騎馬戦から足軽や鉄砲を用いた集団戦へと変化し、大名は家臣や農民を効率的に動員する必要がありました。そのため、幕府の権威を否定し、自分の領国内（分国）のルールを自分自身で決定する分国法が作られました。これには「喧嘩両成敗」のように私的な争いを禁じ、大名による裁判を徹底させる内容などが含まれています。
問3	答え 4 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした	戦国大名は領国の軍事力を維持するため、家臣同士が私的な理由で喧嘩や抗争をすることを強く禁じました。代表的な規定に、理由を問わず争った両者を処罰する「喧嘩両成敗」があります。これにより、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を安定させる狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、禁中並公家諸法度（江戸時代）の説明です。
問4	答え 2 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。
問5	答え 4 下剋上	応仁の乱以降、幕府や守護の権威が衰えたことで、家柄よりも軍事力や政治力といった実力が重視されるようになりました。家臣が主君を倒して実権を握るといったこの動きは、戦国時代の社会を象徴する現象です。選択肢にある「尊王攘夷」は幕末の思想、「一向一揆」は浄土真宗の門徒らによる抵抗運動を指します。
問6	答え 1 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。	応仁の乱以降、室町幕府の権威が失墜し、全国的な法秩序が機能しなくなりました。下剋上の風潮の中で生き残るため、戦国大名は独自の法を設けることで家臣の勝手な行動を制限し、領内を一貫して支配する体制を整える必要がありました。
問7	答え 1 プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。	16世紀にルターやカルバンらが始めた宗教改革により、ヨーロッパではプロテスタントの勢力が拡大し、カトリック教会は大きな危機に直面しました。これに対抗するため、カトリック教会は内部改革を行うとともに、アジアやアメリカ大陸などの海外において新たな信者を獲得し、勢力を立て直そうとしました。イエズス会の設立やポルトガル・スペインによる積極的な海外進出には、このような宗教的な対抗意識と背景がありました。
問8	答え 4 城下町	戦国大名は、それまで自分の領地に城を持っていた家臣たちを、大名の居住する本拠地に集まって住まわせる「集住（しゅうじゅう）」を進めました。これにより家臣の反乱を防いで統制を強めるとともに、商工業者を呼び寄せて物資の流通を盛んにしました。福井県の一乗谷（朝倉氏）や、山梨県の甲府（武田氏）などがその代表的な例です。
問9	答え 2 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した	日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。
問10	答え 2 会合衆と呼ばれる商人たちが町を治め、鉄砲の製造技術を取り入れることで軍事的・経済的地位を高めた。	堺の商人は、自由な経済活動を守るために「会合衆」を結成して自治を行いました。彼らは伝来したばかりの鉄砲の製造に着目し、その技術を確立することで各地の戦国大名と取引を行い、強大な影響力を持ちました。また、こうした豊かな経済力を背景に千利休が「わび茶」を完成させるなど、独自の町衆文化を形成しました。
問11	答え 4 ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。	鉄砲が伝来した1543年は16世紀にあたります。この時期、ドイツではルターによる宗教改革が進んでいました。他の選択肢について、イスラム教の創始は7世紀、モンゴル帝国の建国は13世紀初頭、アメリカ南北戦争は19世紀の出来事であり、いずれも鉄砲伝来の時期とは重なりません。
問12	答え 4 バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。	大航海時代において、ポルトガルはイスラム勢力が支配する陸路を避け、直接アジアの香辛料を手に入れるために海路の開発を進めました。1498年、バスコ・ダ・ガマがアフリカ南端の喜望峯を越えてインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接的な海上交易ルートが確立されました。これにより、ヨーロッパの経済・社会に大きな変化がもたらされました。